

現 地 情 報

環境に配慮したイチゴうどんこ病防除 ～効果的なタフナレイ利用技術の確立～

神戸農業改良普及センターは2008年度から環境に配慮したイチゴのうどんこ病対策技術としてタフナレイの導入を進め、2011年度には3戸の生産者が30aに本装置を導入した。導入当初、本ぽのみの照射では十分な効果を得られなかったが、育苗時にも照射したところ、高い防除効果が確認でき農家の所得向上につながった。

内 容

タフナレイは、特定の波長の光をイチゴに照射することで、イチゴの免疫機能を高め、うどんこ病の発生を抑える装置である。当初は本ぽで昼間6時間照射する方法であったが、より効果を高めるため技術センターとメーカーの協力を得て2011年より育苗時と本ぽの照射を組み合わせた実証を行った(表)。



写真 育苗照射(左)と本ぽ照射(右)

表 照射の組み合わせ方法

処理区	育苗	本ぽ
慣行区	照射なし	昼間照射(6h)
実証区1	昼間照射(6h)	昼間照射(6h)
実証区2		夜間照射(3h)
実証区3	夜間照射(3h)	昼間照射(6h)
実証区4		夜間照射(3h)

うどんこ病発病率は12月中旬の調査で慣行区の9.7%に対し、実証区1～4ではそれぞれ0.0%、1.4%、0.0%、1.4%となり、育苗期照射を組み合わせることによって、より高い予防効果が認められた(図)。

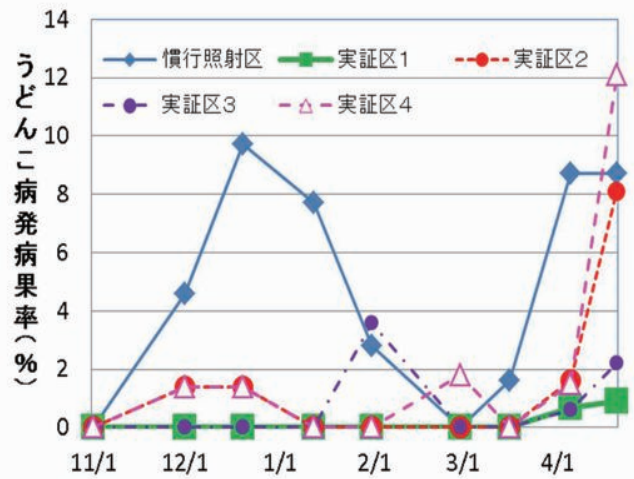


図 各区のうどんこ病発病率の推移

実証区1の場合、慣行区に比べて年間の10a当たりの電気料金と電球などの消耗品費は約6万円割高になるが、うどんこ病発病率が低く抑えられるので、収量は約210kg増加し、粗収入も31.5万円の増加(1,500円/kgで試算)となり、費用対効果が認められた。これにより、イチゴ生産者のタフナレイ育苗期利用に対する関心も高まった。

普及上の注意事項

照射時間によって光源の耐用年数が変わること、照射中は作業が出来ないことに注意が必要である。夜間3時間照射は、その点からも作業に支障が出にくく、短時間で効果があるため有効である。しかし、治療効果はないので、生産者に対し薬剤防除との併用による防除の実践を周知する必要がある。

岡島 由香里(神戸農業改良普及センター)
 (問い合わせ先 電話:078-965-2102)

ひょうごの農林水産技術 No.182 (2013.8) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

平成25年8月15日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408